

3. レジ袋を減らす

たかがレジ袋、されどレジ袋

スーパーやコンビニで買い物するたびに商品を入れてもらうレジ袋は、素材はプラスチックでできています。一枚一枚は薄く、重さも小さいのですが、積もれば山のたとえどおり、国内のレジ袋使用量は、年間300億枚、原油換算で55万klにもなります。

マイバッグをもっていけば、レジ袋は使わずに済みます。ごみの処理による環境負荷を低減させる意味からも、レジ袋は削減したいものです。レジ袋は家庭で出るプラスチックごみの10～15%にあたります。レジ袋を使わないことは、私たち誰もが、今すぐできるごみの削減と石油資源の節約であり、レジ袋1枚で約40gに相当するCO₂の発生抑制にもなります。

一日一枚のレジ袋(10g)を断ると年間！

辞退枚数365枚(年間)⇒レジ袋3,650g

⇒ **3.6kgのごみ削減**

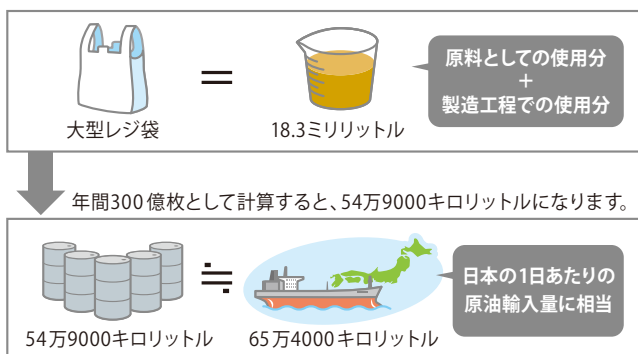
⇒ 原油約6.7リットルの節約(レジ袋1枚=18.3ml)

⇒ **CO₂約14.6kg削減**

(レジ袋1枚=CO₂が40gとして計算した場合)

⇒ **ブナの木 約1.3本の吸収量に相当**

※埼玉県HPより



流通業界のレジ袋削減の取り組み

2006年に行なわれた容器包装リサイクル法の見直しの中で、レジ袋については、年間50トン以上使う小売店に対して、レジ袋削減等の取り組みの報告が義務付けられました。事業者の自主取り組みとして、2010年までに、日本チェーンストア協会は辞退率目標を30%にしましたが25.0%に留まり、2013年になって大手スーパー等の有料化が功を奏し、47.9%と大幅にアップして達成しました。コンビニなどのフランチャイズチェーン協会は目標を35%削減としましたが、結果は30.3%と未達成になっています。百貨店協会は紙類を25%、プラスチック類もできるだけ削減すると明言。スマートラッピング等の取組みで、2005年にはすでに削減率28.8%を達成しました。

